

世界史B

1 漢文を手がかりに人物像に迫った授業展開例

＜主題＞ 項羽と劉邦の争いが描かれた漢文を読み人物を中心に歴史的事実をとらえる

＜解説＞ 1年生の古典の時間で学習した「四面楚歌」を中心に、「王侯相将いづくんぞ種あらんや」や「烏江亭」などの故事成語のもととなった事件をエピソードとともに紹介し、その中に登場する人物たちの生き方、当時の時代背景の理解などをおして、中国史に興味・関心を持たせ、理解を促す授業とした。

2 ワールドカップを通して国家の形成について考えた授業展開例

＜主題＞ ワールドカップの参加国から世界の諸地域の様子を考察させる

＜解説＞ 日韓共催のサッカー・ワールドカップを利用した授業展開。ワールドカップ本大会の予選リーグは、ヨーロッパ諸国を中心に地域などが考慮されたグループ分けになっており、グループの各国の民族や宗教などの分布を考えることをとおして、ヨーロッパ史の学習の導入の授業を意図した。ビデオ教材なども用い生徒の興味・関心を高めた。

3 世界地図を利用して生徒に主体的に思考・判断させる授業展開例

＜主題＞ 地図にみる世界史の変遷を古代から近代まで考察する

＜解説＞ 「世界史への扉」の部分の授業で、各時代に描かれた世界地図を考察することとおして、各時代の人々の世界観や背景を理解し、世界史全体に興味を持たせることを意図した。古代から大航海時代にいたる歴史の中には暗黒時代といわれる時代も存在していることなどが明らかとなり、生徒も興味深く学習に取り組んだ。ただ、理解度を深めるのであれば、3年生の終わりの主題学習に設定すると歴史の変化もよくわかり非常に効果的であると思う。

4 スポーツの歴史を主題に自ら研究・発表することを目指した授業展開例

＜主題＞ 自分がプレーしているスポーツの発生や変遷、日本への伝来を調査する

＜解説＞ 自分がプレーしているスポーツ、好きなスポーツに関して、共通のテーマを設けて調べ学習を行い、個々の生徒がその内容について興味や関心を持てるように配慮した。スポーツは、日本と世界とのつながりを考察させる上で生徒が興味や関心をもって取り組みやすい題材である。コンピュータを利用して、インターネットによる資料収集、発表のまとめの作成を行ったが、普通科の生徒でも技術的な進歩の度合いは早く、成果が上がった。

1 漢文を手がかりに人物像に迫った授業展開例

教科(科目)	地歴公民 (世界史 B)	単元名	第 2 章 アジア・アメリカの古代文明 3.中国の古典文明 本時(3時間目／3時間)
本時の主題	秦の滅亡と漢王朝の成立と発展		
本時の目標	(1) 国語の漢文で学習したことをてがかりに、中国史の基本的事項の理解に自ら取り組もうとする。【関心・意欲・態度】 (2) 秦の滅亡と漢の成立を理解する。【知識・理解】 (3) 古典の文献から歴史的事件の具体的なイメージをふくらませ、自分でそれを表現できる。【技能・表現】 (4) 秦と漢の統治の方法を比較し、中国王朝の統治の相違と変遷について思考することができる。【思考・判断】		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
導入 前時の復習 (5分)	1 秦の行政組織や政策、前時の復習	・既習事項より、歴史的な素材を見つける。	
秦の滅亡の理解 (25分)	2 秦の滅亡と項羽と劉邦の争い ・秦の滅亡の原因を考えてみよう <生徒> ・法治主義の弊害とはどのようなものがあるのか？ ・大規模な土木事業の具体的なものは？ ・陳勝・呉広の乱＝「王侯相将いずくんぞ種あらんや」の意味は？	・項羽と劉邦の話から歴史のおもしろさを見つける。 ・秦の滅亡原因を反乱など具体的な例を出して理解させる。 ・トピックのような話題を話してやることで具体的なイメージや驚きを持たせるようにする。【技】 <評価方法> 挙手・発言	
	★漢文「四面楚歌」を味わおう 「力は山を抜き気は世を蓋う 時に利あらず驪ゆかず 驪のゆかざる奈何すべき 虞や虞や若じを奈何せん」 <生徒> ・なぜ項羽はこんな歌を歌ったのか？ ・楚の歌を聴いたら兵士はどんな気分になるのか？ ・本当に楚の住民が歌っているのか？違ったとしたら？ ・そんなに虞美人はきれいな？ ・虞美人はこの後どうなったの？	・「四面楚歌」の状況を理解させるとともに、項羽の胸中を探ってみる。 <評価方法> 挙手・発言 【関】	
	★漢文「項王の最期」を読んで 項羽はなぜ自らの命を絶ったのだろうか？ <生徒> ・なぜもう一度やり直そうと思わなかったのか？ ・天が滅ぼそうとしているってどういうこと？ ・なんてあっさりした死に方なの？ ・項羽は悔しかっただろうにな・・・	・項羽の死から彼の人物像をとらえる。 <評価方法> 挙手・発言 【技】	
前漢の成立と発展・滅亡の理解	3 前漢の成立 ①建国者 高祖劉邦について ★漢文「高祖三傑を評す」を読んで 項羽や劉邦を取り巻く人々の紹介・・・資料より 張良・蕭何・韓信・范増 <生徒> ・項羽の方がどの能力値を見ても高いのになぜ負けるのか？ ・劉邦はなぜ勝つことができたのか？ ・それぞれの活躍した人物を見てみると特徴があってもおもしろい	・建国の年代を確認し、日本における時代を考察する。 ・漢の建国の立て役者と劉邦の人物像を理解する。【知】 ○漢王朝の成立について、プリント確認 ・後の三国志の登場人物に関係させて中国史により深い興味を持たせる。	

(15分)	②漢の統治機構について ・秦と漢の統治方法の違いを考えよう <生徒> ・郡県制を採用しなかった理由は？ ・親族や功臣を大事にした理由は何だろう？ <先生> ・外征はどうなったのだろう？ ・呂後の専横についての説明（中国3悪女） 4 呉楚七国の乱と武帝の政治 ①内政について ②外征について ③財政再建について	・漢の統治組織が秦の反省を基にしていることに着目する。【思】 <評価方法> プリント提出 ・秦の政策との違いを理解させることでその当時の中国を取り巻く状況や国力を理解する力を養う。 ・中国の今後の歴史への興味を引き出す。 ・反乱の原因を理解する。 ・中央集権体制の確立と内政・外征や問題点などをとらえさせる。	注9 注10 注11
次回の予告（5分）	5 本時のまとめと次回の予告		

<指導上のポイントと考察>

注1 中間考査のあと生徒から回答を得たアンケートの結果からは、中学校であまり世界史を学習していないためか、世界史に興味を持って学習する生徒が極めて少ないことが把握できていた。その中でも中国史は、「漢字」を覚えるというイメージがあるためより強い拒否反応を示す傾向があった。さらに、まだ授業で学習していないにもかかわらず、すでに1/3の生徒が中国史を苦手と判断していた。しかし、中国史は歴史的にも奥が深く、我が国への影響は文化のみならず政治形態にまで及んで大変大きなものがあり、日本は様々な点においてその恩恵にあずかっている。また、「新指導要領」の「世界の中の日本」という単元から考えても、身近な国でありつながりが大変深いという面でも中国史の単元は大切にしなければならない。

そのため、生徒が中国史を好きになり、取り組みを活発にするにはどうすればいいのかを考え、以下の3つの点を踏まえて授業展開を実践してみた。

- 1 故事成語や歴史的な有名人物の登場した事件を物語風に扱う授業展開を心がける。
- 2 時代順の知識の羅列ではなく、中心人物を設定しそれを取り巻く事件や出来事などにふれていく。
- 3 中学校で学習している日本の歴史の内容を常に授業の中に取り入れながら、時代感覚や日本への影響を理解させていく。

この授業では、「項羽と劉邦」という一大叙事詩を中心に授業を進めた。

注2 秦の内政や外征を再度おさえて、次の時代の漢の内政や外征との違いを深く理解させる一助とする。

注3 漢文で1年の冬に学習した「四面楚歌」「項王の最期」を題材にし、項羽と劉邦の中国を統一するまでの歴史的事項を物語として理解し、興味・関心を高めるとともに、自らが歴史に対する主体的な学習姿勢を培いたい。また他の教科を通して総合的に学習する大切さを教えていきたい。

注4 陳勝・呉広の乱、阿房宮、万里の長城などの事件や建築物から秦の政治の混乱の原因を考えさせ、法治主義の問題点などを理解させたい。また項羽と劉邦の蜂起の原因も理解させたい。

注5 阿房宮の大きさ、万里の長城の長さなど具体的な大きさや長さを我々の身近なものと比較して述べ、写真なども使って、大規模な土木工事などの厳しさをイメージによって深めるようにしたい。

注6 「四面楚歌」の状況をイメージさせ、項羽の驚きや絶望と悲しみを、愛しい女性すら守れないもどかしさ、憤りを伝えたい。

注7 紀元前2世紀の時代が、西にあるローマ共和国ではポエニ戦争が終わり、発展している最中だということを理解させ、東は日本とのつながりの中で弥生時代に中国では壮大な王朝ができていたことを分かせたい。日本との交流は、日本史で既に学習している「漢書地理志」を引き合いに出し、古代における交流

への理解を深める。

注8 高祖劉邦の部下である3人の人物から、劉邦が「将の将」として多くの將軍達をまとめあげた推移を述べるとともに、その後建国の際、諸侯や功臣達をねぎらうためにも、郡国制を実施したということを理解させる。

注9 漢の統治組織を秦と比較し、この後の時代の中国の統治組織について理解を深めるように説明する。

注10 部下の蜂起などの教科書には書いていない事項を説明によって補うとともに、歴史の深さやおもしろさを理解する一助とし、その部下の蜂起が呉楚七国の乱を起こした原因であることを述べる。また、それが次の武帝の統治の方法にどのような影響を与えたかも後に説明する。

注11 今まで学習してきた中央集権体制の国家（アケメネス朝、アッシリアなど）と比較し、その形態の違いと中央集権の意義を理解させる。

□単元の目標

東アジア・内陸アジアの風土、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動揺、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。

□各時間ごとの内容

1 東アジア世界と中国の王朝			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○東アジアの風土と人々 ○中国文明の発生 ○殷と周	○東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活の様子を通して、農耕や牧畜にも様々な形態があることが理解できる。【知】 ○黄河文明の成立と長江流域の文明の生活に目を向けさせ、中国古代文明独自の新石器文化の特徴が理解できる。【知】 ○殷・周の成立を理解し、漢字の起源など日本への影響などについても考えることができる。【思】	○地図を利用し地域ごとの自然環境を理解させる。 ○資料集の写真などを使い、土器の成立と発展を理解させる。 ○他の地域の古代文明との対比を行い理解を深める。 ○プリント提出
2 春秋戦国時代と秦の統一			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○春秋・戦国時代 ○社会変動と新思想 ○秦の統一	○春秋・戦国時代の経済や文化の発展について理解するとともに、周辺民族の活動についても目を向けることができる。【関】 ○中国独自の発展を遂げた思想の成立と発展を学習することで、今後の中国の歴史の発展を理解することができる。【知】 ○秦の成立による皇帝の登場や制度の確立などを理解することができる。【知】	○地図や写真によって理解を深めさせる。 ○思想ごとにまとめ、発展について考えさせる。 ○秦の政治の形態についてプリントを利用しまとめる。 ○プリント提出
3 秦の滅亡と漢王朝の成立と発展			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○秦の滅亡 ○漢代の社会と文化 ○秦・漢帝国と世界	○国語の漢文で学習したことをてがかりに、中国史の基本的事項の理解に自ら取り組もうとする。【関】 ○秦の滅亡と漢の成立を理解する。【知】 ○古典の文献から歴史的事件の具体的なイメージをふくらませ、自分でそれを表現できる。【技】 ○秦と漢の統治の方法を比較し、中国王朝の統治の相違と変遷について思考することができる。【思】	○項羽と劉邦の争いなど古典を鑑賞させることで、時代を生きた人物を身近なものにする。 ○特に日本との交流を史料などを用い理解させ、その影響などについても考えさせる。 ○プリント提出

2 ワールドカップサッカーを通して国家の形成について考えた授業展開例

[illegible]

＜指導上のポイントと考察＞

昨年日本と韓国でワールドカップが共同開催された。開催日にはテレビや新聞などでワールドカップの記事が多く報道された。また、体育の授業でサッカーを行っていることもあって、サッカーには多くの生徒が高い興味・関心をもっており、それを授業へ利用する展開を考えた。

ワールドカップは世界32か国が出場して優勝を争う世界規模のスポーツの祭典である。それはオリンピックよりも大規模であるともいわれている。特に民族も宗教もさらには経済規模も大きく違う国々の成立やその伝播などを考えるとサッカーの発展の歴史などはテーマ学習にはうってつけであり、各単元の導入の部分としても、「世界史への扉」としても十分に使用できる教材だと考える。今回はサッカーの発祥であるヨーロッパの単元でこの教材を取り入れ、民族や宗教の国による違いやその成立の背景や特徴に目を向けさせたいと考えた。

- 注1 普段は講義中心の一方的な授業になることが多いので、生徒自身の目でいろいろな教材を探し出し、見つけ出し、捉え出すようにさせたいと考えた。さらに地理や政治・経済などにも興味・関心を持たせたいと考えた。
- 注2 ヨーロッパ世界において、宗教や民族の違いが戦争や国家の成立など今後のヨーロッパのみならず世界の歴史を大きく形作っていくことに目を向けさせたい。
- 注3 短時間の間に効率よく調べ学習ができるよう指導する。
- 注4 机間指導をしながら調べ学習の進捗状況や生徒の理解度を確認し、次時の授業に反映していく。
- 注5 グループ内で特定の生徒だけが調査をすることがあるので、全員で調べ学習を行うよう指導する。
- 注6 日本との比較を常に行い、理解度を深めるだけでなく、民族性や宗教観の違いなど様々な点において生徒が思っているヨーロッパ社会との違いをとらえることができるよう指導する。
- 注7 ただ調べるだけでなく、生徒同士が話し合い、自己主張できる時間をとった
- 注8 個別のデータを結びつけることによって、事柄に関連性があるという歴史的思考力を身に付けさせるよう指導する。

◎調べ学習の調査方法・内容とその視点

- 調査方法・・・ 図書館において5～6人のグループを8つ作り、リーダーを無作為に決めそれぞれ予選ブロック別に調査を行わせた。但しグループは女子ばかりだと試合結果予想などチームの分析ができないこともあったため、男女混合のグループにした。（男女の配分はそれぞれグループによって違う。）
- また、自らが資料を選定した方が、教師が手助けを多く与えるよりも有益であると考え、参考資料となりやすい本の位置や内容をわずかに説明するだけにとどめ、生徒の自発的な調査意欲の高揚を促すように心がけた。なお、調査時間は1時間とった。
- 調査内容・・・ 正式名称、首都、人口（日本との比較）、面積、旧宗主国、GNP、言語、民族、宗教、政治社会、産業など、有名な観光地・特産物など比較がしやすい基礎的な事項に留めた。なお、生徒によるグループ別予想順位をつけさせた。
- 視点・・・ 今回、民族移動と国家の成立に影響を及ぼすような要因の調べ学習という授業展開としたが、今後の授業で大航海時代や絶対主義の成立、近代国家の成立を学んでいく中で必要と思われる内容が項目として調査できたと思う。
- また、面積や人口などは必ず日本と比較をさせ、理解度を深める工夫をした。各グループ別で順位を予想するなど、ただ調べ学習を行うだけでなく、活動の中で楽しみを感じることができるように実施した。生徒は、予想順位を決めるときに互いのファンのチームを言い合ったり、戦力分析したりして活発に活動をしたように思えた。

2002年 ワールドカップサッカーで見る世界の歴史

GROUP C

調査員

予選順位

	アラビ	トルコ	中国	アフリカ
アラビ	0	0	0	1
トルコ	X	0	0	2
中国	X	X	X	4
アフリカ	X	X	0	3

正式名称	アラビ連邦共和国	トルコ共和国	中華人民共和国	アフリカ共和国
首都	アラビ	アンカラ	北京	ヤンバセ
人口(日本の倍)	151530000人(1.22倍)	46310000 (0.35倍)	1196360000人(9.6倍)	22000000人(0.03倍)
人口密度(日本の倍)	11人/km ²	45人/km ²	79人/km ²	31人/km ²
面積(日本の倍)	8512000km ² (22.5倍)	780576km ² (2.05倍)	9597000km ² (25.26倍)	510000km ² (0.13倍)
旧宗主国	アラビ帝国	オスマン帝国	中華民国	フランス
GNP(日本の倍)	5458億ドル	2822億ドル	2914億ドル	115億6000万ドル
1人あたりGNP(2000年)	3587ドル	3007ドル	850ドル	3113ドル
言語	アラビ語	トルコ語	中国語(北方話, 広東語等)	スワヒリ語(10.5%) フランス語(48%)
民族(系)	アラビ系, アフリカ系	トルコ系	漢民族(91%), 少数民族	スワヒリ系(48%)
宗教(派)	イスラム教(90%) キリスト教(10%)	イスラム教(99%) キリスト教(1%)	イスラム教, 仏教, 道教, 基督教	カトリック
政治・経済	共和政体(大統領制) 軍事政権	共和政体(大統領制) 軍事政権	共和政体(人民代表大会) 社会主義	共和政体(大統領制) 共和政体
特徴	世界で最も暑い国	地帯が乾燥して、地帯が乾燥	土地が広大で 東部の豊か	海沿いの都市が中心で 内陸部
有名なもの・特産物	コーヒー豆(10%), 綿(10%) アフリカ	コカコーラ, サウダ, トウモロコシ ライム, エンペ	絹糸, 米, 小麦, 茶	コーヒー豆, パナマ, コロンビア バナナ, 砂糖

2002年 ワールドカップサッカーで見る世界の歴史

GROUP H

調査員

予選順位

	日本	ベルギー	ロシア	チュニジア
日本	0	X	0	2
ベルギー	X	0	X	3
ロシア	0	0	0	1
チュニジア	0	X	X	4

正式名称	日本国	ベルギー王国	ロシア連邦	チュニジア共和国
首都	東京	ブリュッセル	モスクワ	チュニス
人口(日本の倍)	1億2261.3万	1011万	1億4804.15	889万
人口密度(日本の倍)	329人/km ²	322人/km ²	9人/km ²	35人/km ²
面積(日本の倍)	37万2723km ²	30万518km ²	1707万5000km ²	16万3610km ²
旧宗主国	なし	オランダ	なし	フランス
GNP(日本の倍)	4兆789億ドル	2506億ドル	3225億ドル	199億ドル
1人あたりGNP(2000年)	3万2230ドル	25450ドル	2270ドル	2100ドル
言語	日本語	フランス語, 英語	ロシア語, ウクライナ語 他に多くの民族語	アラビア語(公用語) フランス語
民族(系)	日本人	70万人(フランス系), 73万人 (オランダ系)	ロシア人, カザフ人, ウズベク人	アラブ人, ベルベル人
宗教(派)	仏教	カトリック	ギリシヤ正教, イスラム教	イスラム教
政治・経済	憲法政体(議院制) 二院制	憲法政体(議院制) 二院制	二院制	一院制, 直接選挙あり
特徴	季節風の影響が大きい国 火山活動が活発な国	EUの本拠地がブリュッセルにある。 西洋文化が盛んな国。	1991年にソ連から独立。 面積が世界で大きい。	国土の大部分が砂漠
有名なもの・特産物	米, 大豆, 金, 着物	ビール, 小麦, 石炭, 毛織物, 砂糖 ソーダ, 銅	鉄鋼, 石油, 天然ガス, 食肉 機械, 水産物	石油, 金, 小麦, 柑橘類

□単元の目標

ビザンツ帝国と東ヨーロッパの展開、西ヨーロッパの封建社会、都市の発達と王権の伸張に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成、変動の過程を把握させる。

□各時間ごとの内容

1 ヨーロッパの風土と民族・国家の形成			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○調べ学習のグループ分け ○テーマの設定 ○テーマについての調査とまとめ	○サッカー・ワールドカップを題材に各国の諸要素を調べる学習により、諸地域社会の歴史と相互の交流・結合の歴史を理解する。【知】 ○世界的なイベントやスポーツ行事など身近な出来事をてがかりに、歴史的事項に自ら取り組もうとする。【関】 ○ヨーロッパ諸国を中心に、国家の形成に関して、民族、宗教、言語等の要素について考察する。【思】	○机間指導により生徒の活動を見る。 ○机間指導 ○ワークシート提出 ○得られる結論を予想しプリントにまとめ提出
2 ヨーロッパの民族と国家に関する発表			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○テーマについての発表	○各グループごとに報告書を利用して発表を行う。報告に関しては今回は前時作成のものを利用する。【技】【思】	○発表の評価表（発表者、報告者とも） ○自己評価表の提出
3 ゲルマン民族の移動とフランク王国の成立			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○ゲルマン人の大移動 ○フランク王国の発展とイスラームの侵入	○ゲルマン人の活動などによって地中海世界が解体し、中世ヨーロッパの基礎ができたことを理解する。【知】 ○フランク王国の成立がローマ教皇との連携により起こったことを捉え、その相互の発展にも目を向ける。【思】	○発問・挙手 ○古代から中世へ時代が移行したことをとらえる。 ○資料集や板書を通して2つの関係を理解する。 ○プリント提出
4 フランク王国の発展と二つの教会			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○ローマ＝カトリック教会の成長 ○カール大帝 ○分裂するフランク王国	○キリスト教を共通の基盤としながらも、東西に分かれ、それぞれが独自の文化で発展してきたことを理解する。【知】 ○フランク王国の最盛期を築いたカール大帝の治世の様子を理解する。【知】 ○フランク王国の分裂と地中海世界の分裂について理解し、現代ヨーロッパ世界との関連について考察する。【思】	○東西のキリスト教の違いを理解する。 ○他の地域の中央集権体制と比較する。 ○プリント提出
5 ノルマン人の移動と封建社会の成立			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○外敵の侵入と西ヨーロッパの混乱 ○封建社会の成立	○ノルマン人などの諸民族の独自の生活を理解する。【知】 ○スラブ民族の進出と国家の成立について理解する。【知】 ○日本の封建社会と比較し、契約重視のヨーロッパ社会の特質を考察する。【思】	○地図や写真によって理解を深めさせる。 ○プリント提出
6 ローマカトリック教会と西ヨーロッパ封建社会			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○教会の権威 ○まとめ	○封建社会の成立から発展と教会との結びつきを理解する。【知】 ○キリスト教と国家の成立などについてお互いの関係を捉えながら理解する。【知】 ○ヨーロッパ中世社会におけるキリスト教の役割の重さについて考察し、現代ヨーロッパ世界におけるキリスト教の意味について関心をもつ。【思】【関】	○図版や写真により関心が高める。 ○プリント提出

3 世界地図を利用して生徒に主体的に思考・判断させる授業の展開例

教科(科目)		地理歴史科 世界史 B	単元名	世界史への扉
本時主題		古代地図の変遷と発達について考える (1時間目／5時)		
本時の目標		(1) 古代から近代にいたる複数の世界地図の相違や変遷から、作成者やその時代の考え方等を知ることができることを理解し、時代によって世界観に違いがあることを理解する。【知識・理解】 (2) プトレマイオスの地図と中世の地図を比較し、その違いを表現し、必ずしも時代が下がれば正確になるというわけではないことを理解する。【技能・表現】 (3) 「メルカトル図法」による2枚の世界地図について、それがどこの国を中心として描かれているかを思考し、背景にある海洋国家の覇権争いの事実を推察する。【思考・判断】 (4) 「ピリ＝レイス」の地図（製作されたとされる年代には発見されていなかった南極大陸が描かれている）の謎解きから、世界史の学習への興味や関心を高める。【関心・意欲・態度】		
指導の内容・ねらい		学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
・ 古代の地図を2種類提示し、その違いを捉えさせる。 10分（経過時間）		Question 1 「Ga-Sur」と「バビロニアの世界地図」の古代地図をみて、その特徴と相違点をあげる。 「Ga-Sur」の地図は自分の生活範囲のみを表しているのに対して、「バビロニアの世界地図」は都市の周り全体の範囲を表していることに注意する。 - 作成された地図から、作成者やその時代の考え方が推察できることを理解する。	○粘土板の説明を見せて、興味関心を引きつつ説明し、発表させる。【関】 〈評価方法〉 発問、挙手、発表	
・ プトレマイオスの地図から古代にも科学的に地図が描かれたことを理解させる。 20分		Question 2 「プトレマイオスの世界地図」をみて、気づいた点とその特徴をあげる。 「プトレマイオスの地図」は地球が球体であることや緯度や経度が記入されており科学的な観察で描かれたことに気付かせる。 - 一方、「キリスト教の地図」「インドの地図」「T Oマップ」「チューリンマップ」等の中世の地図が宗教や神話または憶測をもとに作られたことを理解させる。 - 必ずしも時代が後の方が正確な地図とは限らないことに気付かせる。 - 古代ギリシアと中世の世界の相違をイメージさせる。	○プリントに二つの地図の特徴を記入させる。【技】 〈評価方法〉 発問、挙手、発表 ○中世の世界とはどういうものかも考えさせる。意見発表によりイメージさせる。【技】 〈評価方法〉 発問、挙手、発表	
・ 新大陸の発見に伴う地図上の広がり理解させる。 ・ 時代の変化によって地図も大きく変化することを理解させる。 45分		○「近代の地図」を見せ、アメリカ大陸が記入されていることに注目する。 ・ 大航海時代以降の世界の急速な結びつきを理解させる。 Question 3 「メルカトル図法の世界地図」の2枚の世界地図を見て、どこの国を中心に描いた地図か、メルカトル図法がどのような目的の地図かについて考察させる。 「メルカトル図法」の特徴を理解するとともに、その特徴である方角の正確性が大航海時代を大きく発展させたことについて理解する。 1枚目は、大航海時代を先行したポルトガルやスペイン覇権時代の地図。インド航路、大西洋航路に続く、第3のアジア到達航路(北極回り)が模索された事実と結びつける。	○地図に描かれている大陸などを指しながら興味・関心を引きつつ、説明。 ○2種類の地図がどの方面から見たものかなど具体的な説明を与えて正解を誘導する。 ○時代背景を理解できるとさらによい。【思】 〈評価方法〉 プリント記入（提出） 発問、挙手、発表	
・ 歴史を学ぶ楽しさについて考える。 50分		・ 「ピリ＝レイスの地図」から解明されていない歴史の深みや面白さを捉えさせる。 ・ 次時のスポーツに関するテーマ学習の予告。	○本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。【関】 〈評価方法〉 発問、挙手、発表	

<資料編>

- 1 「Clay Tablet map from Ga-Sur, 2500 B.C.」＝「最も初期に名高い地図」
 URL＝<http://www.henry-davis.com/MAPS/Ancient%20Web%20Pages/100D.html>
 イラクのキルクークサイトの200マイル北で1930年に発見されたもの。大きさは7.6×6.8cmで手のひらにのるくらいのものである。
 タブレットの表面は、丘を二つの範囲に分けて、粘土に押し付けられたか引っ搔かれてくさび形の特徴をもって書かれている。自分を中心にその回りを描いたもので、初期の地図はここから始まったといえる。
- 2 「Babylonian clay tablet world map, 600 B.C.」＝「バビロニアの世界地図」
 URL＝<http://www.henry-davis.com/MAPS/Ancient%20Web%20Pages/103.html>
 中心に繁栄したバビロンがあり、その回りに全世界を含んだ地域を描こうとした地図で、粘土板に描かれている。
 粘土板にはユーフラテス川やペルシア湾なども描かれており、バビロンを取り巻くよう「苦い川」があり、そのまわりには7つの海があると描かれている。しかし学者によっては8つの島があったという報告もある。この7つの海の説明についてはそれぞれ楔形文字で書かれており、それぞれ特徴がある。このように考えるとギリシアの地図の概念は、バビロンのそれと違って、自分の世界を取り巻く海は全て未知の世界であることも記されている。
- 3 「プトレマイオスの地図」
 URL＝<file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp/triLNJGH.htm>
 URL＝<file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp/triGKFPF.htm>
 URL＝<http://www2u.biglobe.jp/~KA-ZU/17-1.html>
 プトレマイオスとは2世紀にエジプトのアレキサンドリアに住んでいた天文・地理学者である。天文書「アルマゲスト」全8巻を著し、大きな影響を与えたものである。
 彼は地球の大きさの実感を初めて示そうとした学者であり、数学を使い、観測を大事にした人物である。彼の地図は中国の西域まで描かれており、全世界の四分の一ほどまでカバーしている。
 地図の特徴は、赤道の値を過小に見積もったために、アジアが著しく東方に伸びてしまったところと、8000地点もの緯度や経度があげられている所である。緯度や経度についてはどれもが正確であり驚くものである。
 しかし、プトレマイオス自身の原図は存在せず、この地図は15世紀に再発行されたものである。
- 4 「キリスト教の地図」
 URL＝<file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp/triGEDBE.htm>
 13世紀に賛美歌の一部に載ったものである。この地図は10cm×15cmの大きさで、挿絵として載っているが中世の世界の捉え方を反映するものとしては面白い。エルサレムを中心に紅海、アフリカ、アジア、ヨーロッパなどが描かれている。
- 5 「インドの地図」「T Oマップ」「チューリンマップ」
 URL＝<http://a-fujituka.hp.infoseek.co.jp/demae2/history-2.htm>
 7世紀頃の「インドの世界」を描いたものである。大きな亀がいて、その上に4頭の象がいる。その象が世界を支えているという世界観である。
 「T Oマップ」は10世紀に描かれたもので、エルサレムを中心にT字型に海や川を表し、アジア、アフリカ、ヨーロッパが描かれている。
 「チューリンマップ」は同じく10世紀頃に描かれたものであるが、地の果てに奇怪な人物が描かれている。どの地図も中世の時代に描かれているが、この時代は地球が丸いことは信じがたいことであり、そのように考えることは悪であるという、地図の暗黒時代である。実際、地の果てには奇怪な生き物や悪魔が住む世界があり、それが何の研究や確証もなく描かれている。
- 6 「メルカトルの世界図」
 URL＝<file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp/triLPKO.htm>
 URL＝<http://www.henry-davis.com/MAPS/Ren/Ren1/406.htm>
 1569年に描かれたジェラルド＝メルカトルの世界地図である。メルカトル図法で描かれており、オランダの勢力の伸張ぶりやこのあとの大航海時代への影響について考える。
- 7 「北方航路の探検と極地図」
 URL＝<file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp/triBDMLP.htm>
 URL＝<http://www.henry-davis.com/MAPS/Ren/Ren1/407.htm>
 1595年に描かれたジェラルド＝メルカトルによる北極を中心に描かれたシンプルな投影法である。16世紀末に海外進出でスペインやポルトガルに出遅れたイギリスがアジア大陸やアメリカ大陸の北岸を回りこんで中国へ行くという第3の航路がで上がる。国家の発展と地図の発展を考える上でとても貴重な地図である。
- 8 「ピリ＝レイスの地図」
 URL＝<http://stver.hp.infoseek.co.jp/map.htm>
 1513年頃にトルコのピリレイスが作った地図。この地図には当時未発見とされていた南極が正確に描かれている。南極は、1818年に正式に発見され、1920年にイギリスとスペインの共同調査の結果、初めてその地形が完全に地図化されたとされている。このためこの地図は、オーパーツの地図といわれる。
 オーパーツとは英字で書くと「ooparts」、これはOut Of Place Artifactsの略。Out Of Place Artifactsというのは、「場違いな遺物」という意味である。すなわち、その時代にあったはずがないほど、高度な技術や近年の知識が使用されている遺跡や遺物のことである。

＜単元の全体指導計画＞

世界史への扉

□単元の目標

身近なものや日常生活にかかわる主題，我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。

□各時間ごとの内容

1 古代地図の変遷と発達について考える			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	○古代の地図 ○プトレマイオスの地図 ○メルカトルの地図 ○ピリ＝レイスの地図	○古代から近代にいたる複数の世界地図の相違や変遷から、作成者やその時代の考え方等を知ることができることを理解し、時代によって世界観に違いがあることを理解をする。【知】 ○プトレマイオスの地図と中世の地図を比較し、その違いを表現し、必ずしも時代が下がれば正確になるというわけではないことを理解する。【技】 ○「メルカトル図法」による2枚の世界地図について、それがどこの国を中心として描かれているかを思考し、背景にある海洋国家の覇権争いの事実を推察する。【思】 ○「ピリ＝レイス」の地図（製作されたとされる年代には発見されていなかった南極大陸が描かれている）の謎解きから、世界史の学習への興味や関心を高める。【関】	○2枚の地図の違いを気付かせ、発表させる。 ○地図の広がりや緯度や経度が記されている点を気付かせ、発表させる。 ○中世の世界観を理解させ、記入発表させる。 ○現代の地図との相違点を捉えさせ、発表させる。 ○本時のまとめ プリント提出
2 スポーツの歴史とその発展についての調べ学習の内容決定と予想立て			
	○調べ学習のグループ分け ○調べ学習の内容決定 ○内容についての予想	○身近にあるスポーツに目を向け、それが歴史の発展と関係していることを理解する。【知】 ○身近なものや日常生活にかかわる事柄から、その起源や変遷などを追究させ、歴史的事項の理解に自ら取り組もうとする態度を養う。【関】 ○インターネットなどを利用し、よりよい情報を収集できる力と、それらを発表しやすいようにまとめる方法を身に付けさせる。【技】	○机間指導をし、生徒の活動を見る。 ○プリントに予想を書かせ、調査項目についてもあらかじめ計画を立てさせる。 ○プリント提出
3 インターネットを利用した調査			
	○内容についての調査 インターネットを使用	○インターネットを利用し、各スポーツの成立や発展、日本への普及などをグループごとに調べる。【技】【関】	○机間指導 ○報告書にホームページアドレスを付記することで、どのアドレスで調べたかなど、その合理性などを評価する。
4 WORDなど文書作成ソフトを使用した調査のまとめ			
	○WORDを利用した報告書づくり	○文書作成ソフトであるWORDを使用してグループごとに分担を決めて報告書を作る。 ・文字飾り、大きさ、センタリングなどの機能 ・コピー、貼り付けなど文書作成の機能 など基本的な報告書作成に関わる統一的な事項も抑えながら簡単な文書作成を行う。【技】【思】	○机間指導 ○報告書の提出
5 発表			
	○報告書を利用して報告会を行う。	○各グループごとに報告書を利用して発表を行う。報告に関しては今回は前時作成のものを利用する。【技】【思】	○机間指導 ○発表の評価表（発表者、報告者とも） ○自己評価表の提出 ○単元のまとめ

4 スポーツの歴史を主題に自ら研究・発表することを目指した授業展開例

教科(科目)	地歴公民 (世界史 B)	単元名	「世界史への扉」
本時の主題	スポーツの歴史とその発展について調べ学習を行う (2～5時間目／5時)		
本時の目標	(1) 身近にあるスポーツに目を向け、それと歴史の発展とについて考察する。 【思考・判断】 注1 (2) 身近なものや日常生活にかかわる事柄から、その起源や変遷などを追究させ、歴史的事項の理解に自ら取り組みようとする態度を養う。 【関心・意欲・態度】 注2 (3) インターネットなどを利用し、よりよい情報を収集できる力と、それらを発表しやすいようにまとめる方法を身に付けさせる。 【技能・表現】 注3		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
・グループ分け	3～5人のグループをつくり、グループごとに協力し調査・発表を行う。	注4	
・テーマの設定	自分が所属していた部活や興味のあるスポーツについて調べる内容を考え、海外で成立し日本へ普及したものや、逆に日本で成立し海外へ広がっていたものなどを予想させる。 ・ワールドカップサッカーの歴史を紹介し(資料集)スポーツとその成立の過程を考えてみる。 ・身近なスポーツを取りあげ、他のグループと同じ競技を選ばないように調整する。	・身近なスポーツの起源や変遷を調べさせ、それらに目を向けさせる。 ・調べる具体的な内容や疑問点などをあらかじめまとめさせておく。 ・調べる内容について、グループごとにいつ頃が起源でどのように発展していったのかなどを予想させ仮説を立てさせる。 【思】 注5 <評価方法> ・机間指導により観察。調べる内容や仮説を書いたプリントを授業終了時に提出。 ・効果的にコンピュータを利用し情報を収集する方法や、参考図書から必要な内容だけ抜き出せるような方法を学ぶ。【関】 注6 <評価方法> ・机間指導により観察。	
・テーマの調査	決められたテーマの内容で、グループごとに調査を行う。 ・図書館での参考図書の利用や、コンピュータでインターネットにアクセスし、テーマ研究に必要な内容をまとめる。 ・コンピュータの接続などの技術に慣れていない生徒に対する説明を行う。		
・調査項目のまとめ	調査した内容についてグループごとに話し合い、わかりやすくそれらをまとめる。	・ホームページのURLを記録させ、参考資料に記載するように指示する。まとめて提出させる。	

・調査テーマの発表	・いろいろな資料を総合的にまとめ、そのスポーツの発展や日本との関係がわかるように記入する。 ・次回のテーマ学習の際にはパワーポイントなどのコンピュータソフトを利用してプレゼンテーションできるように機材の使用方法などを伝える。 ■ 調べた内容についてグループごとに、工夫して発表する。 ■ ・時間を決め、その中でグループで協力しあいながら発表する。 ・発表の態度や方法、発表内容などいろいろな観点において他の生徒に評価させ、次回のプレゼンテーションに役立てるようにする。また、今回の発表についてもそれらを参考にしてさらに深めることができるようにする。	・スポーツの発展の歴史とその時代の歴史的背景を考えさせる。 注7 ・発表しやすいよう体系的にまとめる。 【技】 注8 <評価方法> ・机間指導により観察。体系的にまとめられているか、日本への伝達や普及について詳しく述べられているかを確認する。 ・自分たちの予想した内容との違いを発表し、内容について深める。 注9 ・聞き手にわかりやすく発表する。 【技】 注10
・次回の課題学習について説明	・次回はスポーツにこだわらず、日ごろの食生活に出てくる食材や、都市とその発展についてなどテーマを変えて学習していくように予告する。	<評価方法> ・時間内に効果的に発表できるかどうかを、他の生徒からの評価と感想や不明な点など書かせて提出させる。また、自己評価も行い提出する。 ・他の事柄も歴史的背景があることを理解させ、今後の課題学習のテーマ設定に役立たせる。

<指導上のポイントと考察>

サッカーのワールドカップが日韓共催で行われ、2002年、日本は空前のサッカーブームとなった。いままでサッカーに関心がなかったものまでも、にわかサッカーファンとなった。また、アメリカの大リーグではイチローをはじめ新庄や石井など多くの日本人選手が活躍しており、その他のスポーツについても、国際的・国内的に大きくニュースや新聞を飾るようになった。生徒をみると、平成12年に全国インターハイ岐阜大会を経験し、自分と同じ高校生の一流のプレーを間近で見ることによって、スポーツへの関心や興味が以前よりも沸いてきたと思われる。もちろん多くの生徒が運動系部活動にも加入しており、スポーツはわれわれの生活の中でとても大事な一部分となってきている。

さて、新指導要領では、「世界史への扉」という単元を冒頭に設け、日常生活に見る世界史を取り上げ、身近なところにも世界史とのつながりが見出せることに気付くことによって、世界史への関心を高めることが意図されている。

生徒は、中学校の時には世界史をほとんど学習しておらず、世界史は未知の学習領域であるし、興味や関心を持たなければ意味不明のカタカナだらけのとっつきにくい科目となるか危険性もある。ただでさえ以前から世界史嫌いが叫ばれている中、身近な事柄が世界史と密接な関係があることに気付かせ、世界史を身近に感じることから興味や関心を引き出すように授業を行うことは今後の世界史を学習する上においては必要不可欠であると思う。

そこで、上に述べたようにわれわれの生活の中で最近特に身近になってきたスポーツの歴史に重きをおいた世界史の調査・研究・発表の授業を行うこととした。その事柄の世界史的な背景や歴史だけという断片的な知識を調べるのではなく、特にその競技の日本との関係や日本に伝わった時代、その発展について詳しく調べていき、発表させた。

また、普通科高等学校では日ごろあまり授業に使用しないコンピュータを積極的に取り入れた。新課程で導入される教科「情報」との関連もあり、いろいろな画面から必要な情報を取り入れる方法やその具体的な手段を学ばせた。

「情報化社会」といわれ情報機器の使用だけでなく、社会の中にあふれるさまざまな情報の中で埋没しないように調べた情報の中から必要な内容を厳選し、取捨選択する力をつけさせなければならない。

注1 過去の歴史的イベントやそれに関わった人物名の暗記に力点を置いた今までの歴史学習を反省し、過去のできごとが現代のわれわれの身の回りにあるさまざまな事柄に影響し、その発展に関係しているということに気付かせ、自らの視点で追究し歴史的背景やその影響を考察する。

また、スポーツの発祥の多くは海外であり、レジャーとして広がったのは19世紀の後半であると思われる。その時の日本の社会的様子と日本人の生活習慣ならびに文化の洋風化などの視点から、スポーツが海外から日本に普及した様子や影響が理解できるようにしたい。また、20世紀に起こった2度の世界大戦がスポーツに及ぼした影響についても考えたい。

注2 生徒に身近な題材を考えるのはなかなか難しい。生徒個人個人にはいろいろな興味や関心があり、それをひとつにまとめることは容易ではないからである。特に今までにない歴史の学習形態ということもあって戸惑うこともあると思われるので、「身の回りのもの」という幅広いテーマで調査するよりも、生徒全員が関心をもって調べ学習ができるであろうと思われる「スポーツ」にテーマを絞ってみた。

注3 世界史の授業は教員による講義形式中心の一方的な授業になりがちであるが、今後の歴史学習の導入の部分という観点から、生徒の興味・関心を高める意味もこめて、インターネットを利用した調べ学習を行った。この授業を通してコンピュータなどの情報機器にも興味を持てるようにし、プレゼンテーションの方法など自己表現の大切さも考えさせたい。

注4 生徒同士のコミュニケーションや協力体制がうまくいくように、共通の趣味や同じ部活動など興味・関心の度合いが近いものでグループ編成を行った。また、グループ全員が調べ学習に参加できるように、3人～5人のグループにした。

注5 仮説の設定に際して、「世界史への扉」を学習する2年生は、ほとんど世界史の知識を持たないため表面的な歴史認識にとどまることもあるので気をつけたい。

注6 コンピュータを取り扱うのがはじめての生徒も少なくなく、実際コンピュータを使って情報を集めるのは教員が行うことになる。また競技によっては歴史を調べようとしてもわずかししか掲載されていないスポーツもあり、苦勞するのが現状である。そのため、他に「現代用語の基礎知識」「Imidas」や「知恵蔵」を利用した。ただ、個々のスポーツの歴史を調べるには専門書が必要となり学校の図書館では不足しているのが現状であり、今後県図書館などに出かけて調べてみるのもよいと思う。

注7 まだ世界史を学習していない生徒にとっては、課題研究の内容だけから歴史的背景をとらえることは難しく、理解も進まないが、今後の通史の学習の中で学んでいくことが大切であると思われる。また、3年生の後期には、これまでの学習をしめくくるという意味で課題研究を行い、まとめ発表させることも大切であると思う。

注8 今回は、現在では生徒がコンピュータの操作方法に不慣れなことから、時間がかかりすぎてしまうため、プリントやB紙などを使用して発表するが、今後コンピュータでの発表を行いたいと考えている。

注9 仮説との違いや研究によって新たにわかってきた点についてまとめるとともに、他の競技との関連性や影響なども詳しく調べ発表できるようにする。

注10 発表に際して評価表を全員に配布し、発表の態度やグループの協力体制、発表の内容など5つの観点について生徒相互で評価しあう。また、自己分析も行い次回の発表に有益なものとする。なお、この評価の内容について課題研究を行う前に生徒に提示する。

ソフトテニスを調査項目に選んだグループについて

<インターネットのホームページURLの例>

・調査内容・・・ソフトテニスの歴史と日本への普及について

<http://www.h2.dion.ne.jp/~h.tennis/sub2.htm>=テニスの歴史、起源、原型など

<http://csx.jp/~istc/history.html>=ソフトテニスとは?、国際化したソフトテニスなど

http://www.niji.or.jp/home/color/softtennis_history_of_softtennis.tem=ソフトテニスの歴史など

<http://member.aol.com/oayaoya2/TOPICS.HTM>=ソフトテニスの歴史など

その他、硬式テニスの歴史などにもアクセスし、テニスの発祥や日本への伝達、普及などを調べてみる。

. 11

<課題学習 発表 評価表>

発表テーマ		3年 組 番氏名					合計点
評価	1 発表の声の大きさや態度	1	2	3	4	5	
	2 調査項目のわかりやすさ	1	2	3	4	5	
	3 グループの協力体制	1	2	3	4	5	
	4 日本との関係が述べられている	1	2	3	4	5	
	5 課題研究のまとめ方について	1	2	3	4	5	
不明な点（新たに課題になった点）		感想（反省）					

「4つの実践によって明らかとなった課題」

○1 「世界史への扉」のテーマ設定について

教科書には序章として「世界史への扉」と、巻末に主題学習の二つの課題学習が設置されているが、特に「世界史への扉」のテーマの設定には苦勞した。世界史の大まかな流れが分かった状態で行う主題学習とは異なり、世界史を学習していない生徒たちに興味を持たせることを狙いとする「扉」のテーマ設定では、理解しやすいテーマを見つけることは難しく、さらに生徒それぞれの興味の度合いも違うからである。また「世界史への扉」を実施したのち、そのあと通史の授業との兼ね合いも大きな問題点であるように思われる。

○2 「世界史への扉」の評価について

「世界史への扉」を調べ学習やプレゼンテーション活用の授業改善の一つと考えるのならば、その評価のあり方についても工夫が必要である。自己評価・相互評価・教師による評価など多様な方法とその配分などを熟慮しなければならない。また、それを全体的な評定にどのように結びつけるのかも今後の大きな課題である。

○3 興味を持たせ、関心を高めるための方策

今回、興味・関心を高めるために授業のはじめや途中に「項羽と劉邦」「ワールドカップ」というテーマを設定し、その人物像や国家の特徴などをとらえる手法を実施したが、これまでに「三国志」「水滸伝」「世界の絵画」「世界の名言」「世界のオーパーツ」「紅茶とコーヒー」などのテーマで授業を行ったこともある。生徒はどの授業においてもとても興味や関心をもって学習し、家庭でも「歴史」を取り扱った番組などを見る機会が増えたようである。他に、どの場面でどのような授業を行うことが生徒の興味・関心を高めることにつながるのかの研究を続けていかなければならない。

○授業実践研究を実施して・・・

一つの授業案の作成のためにインターネットや様々な図書を詳しく調査・研究することが、授業の改善、教師の資質の向上には不可欠である。日頃当然のように行っている講義中心の授業を見直し、改善を加えていく必要性を痛感した。また、年々変わる生徒に対して、生徒を引きつける授業を実践していくために、自分なりの新しい教材を開発し、さらに工夫を加えていくことが大切である。いろいろな先生方の授業を積極的に学ぶことも必要であり、学校内での研修やインターネット・eメールなどを通しての相互の交流も進めていく必要があると痛感している。